



休眠預金等活用制度の目的

1

国、自治体が対応困難な
社会の諸課題の
解決を図る

2

民間公益活動の
自立した担い手の育成と
民間公益活動に係る
資金調達の環境を整備



優先すべき3つの社会課題

休眠預金等活用制度では、以下の3つの領域を優先して
社会課題の解決に取り組んでいます。



子どもや若者への支援

- 経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
- 日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
- 社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援

1

生活を営む上で困難を有する者への支援

- 働くことが困難な人への支援
- 孤独・孤立や社会的差別の解消に向けた支援
- 女性の経済的自立への支援



2

地域活性化への支援

- 地域の働く場づくりや地域活性化などの課題解決に向けた取組の支援
- 安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援



3



休眠預金を活用した事業です



JANPIA

一般財団法人 日本民間公益活動連携機構

〒100-0011
東京都千代田区幸町2-2-3
日比谷国際ビル314



私たちは、休眠預金を活用した事業を実施しています。



休眠預金を活用した事業です

休眠預金を、社会のために。

休眠預金等 活用制度



休眠預金をご存じですか？

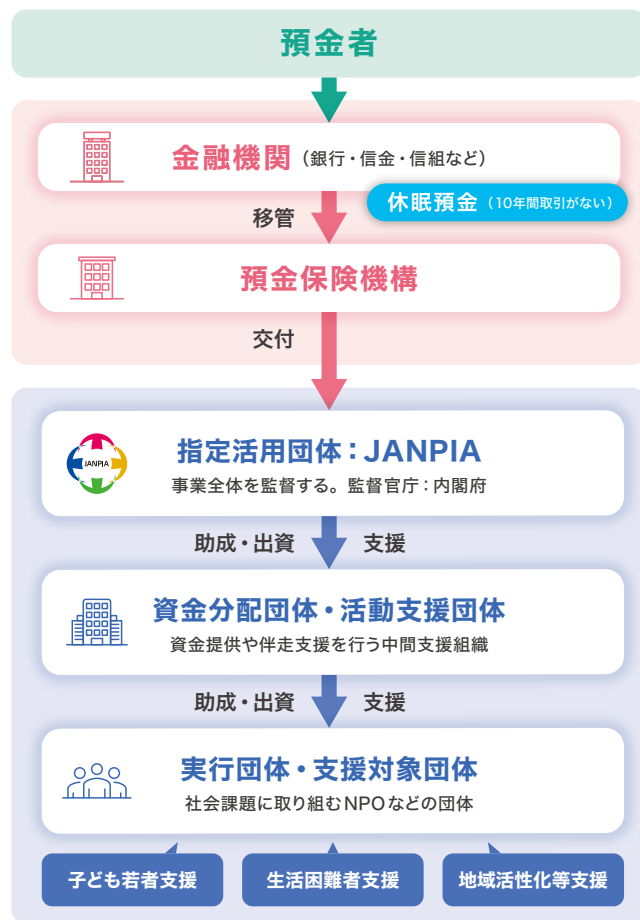
金融機関で10年以上入出金等の取引がない預金のことを休眠預金と呼びます。休眠預金は、法律に基づき、行政では対応することが難しい社会課題を解決するために活用されています。



休眠預金等活用制度のしくみ

休眠預金は、まず各金融機関から預金保険機構に移管されます。その資金の一部が、国から指定を受けた**指定活用団体 (JANPIA)**に交付され、**資金分配団体・活動支援団体**といった**中間支援組織**を通じて、行政だけでは解決の難しい社会課題に取り組む**実行団体・支援対象団体 (NPOなど)**の活動や団体の担い手の育成に活用されています。

※休眠預金はいつでも払い戻しができます。



休眠預金等活用制度では、休眠預金を活用する上で以下の点を大切にしています。

- 1 事業で生まれた成果の可視化
(社会的インパクト評価)
- 2 事業の公正・適切な実施
(ガバナンス・コンプライアンス体制の整備)
- 3 事業の透明性 (情報公開の徹底)
- 4 多様な関係者との連携・協働



よくある質問



Q どのくらいの金額の預金が
休眠預金等になっているのですか？

休眠預金等の金額は、毎年約1,300億円から1,600億円程度が発生し、預金保険機構に移管されています。具体的な金額については、預金保険機構のウェブサイトで確認することができます。本制度では、このうちの一部が活用されています。



Q 休眠預金等になったら、
引き出せなくなるのですか？

取引のある金融機関で引き出すことが可能です。金融機関に、通帳やキャッシュカード、本人確認書類などをお持ち頂ければ、引き出すことができます。必要となる手続きについては、金融機関にお問い合わせ下さい。

その他、よくある質問はこちらよりご覧いただけます。▶▶



各種情報サイト

休眠預金活用プラットフォーム

<https://www.kyuplat.com/>



休眠預金活用事業に関わる様々な情報を得ることができ、社会の諸課題の解決にチャレンジし続ける担い手の皆様に双方向につながるサイトです。



休眠預金活用事業情報公開サイト

<https://johokoukai.janpia.or.jp/>



休眠預金活用事業を実施している団体の情報は、休眠預金活用事業情報公開サイトでご確認いただけます。



助成・出資の公募

<https://www.kyuplat.com/koubo/>



社会課題解決を目指す団体・組織向けの助成・出資・活動支援の公募情報を掲載しています。

※公募情報は随時更新されています。



JANPIA 出資事業部note

<https://investment-note.janpia.or.jp/>



インパクトファーストな投資情報や社会的インパクト評価の先進事例、社会課題を解決するインパクトスタートアップに関する情報などをお届けしています。



Facebook

